8カ月目を迎えた英炭鉱スト
「民族資源守れ」と
保守政権と全面対決

二十炭鉱閉鎖、二万人解雇計画に反対して始まったイギリスの全国炭鉱労組（十八万人）のストライキはすでに八カ月目に入りました。

サッチャー保守党政権は、財政危機を乗り切るため「赤字」国有企業の縮小・民営化、福祉・教育支出の削減など労働者の首切り、国民の負担増を押しつけていますが、閉山・首切り攻撃を受けた炭労を先頭に、職場を守り、国民本位の経済政策を求めるたたかいがかつてなく盛り上がっています。

さる三月六日、石炭庁は労組に対し、深い坑道を使う炭鉱からの採炭量を四百万トン減らすと通告しました。これは二万人の人員整理を意味します。この攻撃は製鉄所の整理、分割、民営化や兵器工場の民営化、公立病院の清掃・洗濯の民間委託などの「行政改革」の一環であるとともに、かつ一九七二年にヒース保守党政権を倒した実力を持つ炭労の弱体化をねらい、一挙に労働組合の抵抗を押しつぶす目的を持っています。

これに対し、スコットランドとヨークシャーの炭鉱労働者がただちにスト突入、炭労本部も三月九日、ストを公認しました。かつて第二組合が存在し、伝統的に右派勢力が強いノッチンガムシャーなどの四万五千人が就労しているだけで、四分の三以上がストに参加しました。

政府・石炭庁側は、マスコミと警察力を使って、ストをつぶそうとしています。炭鉱、発電所、製鉄所には大量の警官隊が動員され、すでに二人の労働者が殺され、炭労のスガーギル委員長夫妻はじめ数千人が逮捕されました。マスコミは、炭労の「暴力」を強調する一方、スト不参加者が増加していると宣伝して、炭鉱労働者の切りくずしを狙っています。

炭労攻撃をつづけてきた『フィナンシャル・タイムズ』紙九月一日付も「炭労の孤立状態は終わるだろう」と書かざるをえませんでした。十月初めに開かれた労働党大会も、警官隊の暴力を非難し、責任はサッチャー首相にあることを明らかにしました。

日本の炭労や総評もカンパを送りましたが、フランス総同盟が四百トンの食糧を送るなど、支援は海を越え広がっています。

どうなってんの？

重傷で黙とう

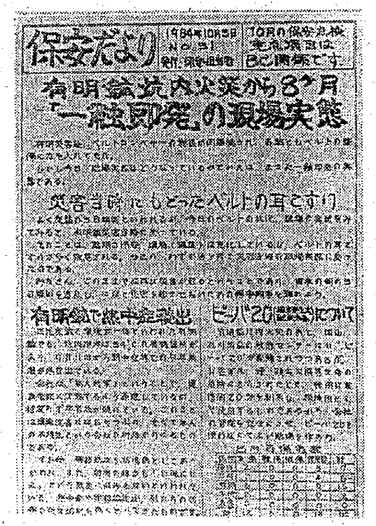
一月十八日の有明鉱大災害以後初めての死亡災害で心が痛みましたが、災害直後から頭骸骨骨折ということで、時間の問題ではないかといわれていました。

この災害に関連して、四山鉱では翌日の繰り込み時に〝死亡〟として黙とうをさせました。聞くところによると、他の箇所でも同様のことがあったそうです。あとで「連絡のミスで……」と訂正がありましたが、なんとずさんなことでしょう。

いったい会社の連絡系統はどうなっているのでしょうか。（M）

『保安だより』が警告
BCは有明災害前の実態

三池労組の十月の保安点検重点項目は、『ベルトコンベアー』関係全般としておりますが、日常の指摘で都度改善されているものの、まだ目の届かない部分もあります。散水設備、片寄り、ローラの不回転、こぼれ炭など、引き続きみんなの目で点検を強めましょう。


保安だより 1984年10月5日 No.31
10月の保安点検重点項目はBCに関係です
有明鉱坑内火災から8ヶ月
「一触即発」の現場実態
災害当時にもどったベルト上の耳こすり
有明鉱で燃中金鑑出
ビーバ20[illegible]について

「一触即発」の現場実態と指摘する『保安だより』

保安
〝手抜き〟〝節約〟は会社の保安無視

十月二日午後三時三十五分ごろ、三川鉱三百五十メートル坑道十四目抜人車ホームで、人車の脱線事故があった。

常一番の一番昇坑人車であったため人車は満員の状況だった。

突然〝ガクック〟と急停車した。「何ごとか！」「どげんしたつか！」と、あちこちからの声がとび交う。

やがて「ドマ（脱線）だ」との声。脱線はすぐにあがり、間もなく発車したが、あとからの調査によるといろいろと問題のあることがわかった。

脱線の原因は、十四目抜で乗車する人がいたので、運転手は手動と電気ブレーキをかけて徐行したが、停車位置を過ぎたので急制動をかけたことにあるようである。

幸い、二両目の前車輪だけの脱線で人身事故にはならなかったが、一歩間違えば狭い小さな人車のことでどうなっていたかわからない。

対策としては、人車運行時にはトラック・ブレーキを使用しないよう再教育するということになっている。翌日、人車事故ということで保安監督局からの現場検証が行われた。

人車に乗っていた人たちは、「スピードの出し過ぎではないか」といっていたが、それも一つの原因になっている。

ところで問題なのは、電車にスピードメーターがないことである。メーターはあっても、ワイヤーがついていない。

昭和五十二年に全車にスピードメーターをつけたが、その後はワイヤーが悪くなったら取りはずしてしまって交換していないという事実が明らかとなった。交換する予備のワイヤーを購入していなかったのである。

この事故から、さし当たって人車にはすぐに完備することになったが、こと保安に関することで〝手抜き〟〝節約〟は絶対にさせるべきではない。

（T・M）

坑外勤続30年1,000万円
最低の要求だったが
娘が嫁いで思うこと

数カ月前、ひとり娘が嫁いでいった。まだ子供だとばかり思っていたのは親のひとりよがりで、親が年老いていくのと同じ速度で娘も成長していくことを、嫁ぐときにしみじみと知らされた。

娘が嫁ぐことは、一人前の人間になっていくのであるから喜ばしいことであるが、どうしてこうもお金がかかるのだろうか。一生に一度のことだから、ともいう。二度、三度もあったら大変だが、世間並みにはしてやりたい、と思うのも親の本音だろう。

そうなると、手元の金のありかを家中ひっくり返して見つめ直さなければならない。日ごろが生活保護にも満たない炭鉱の坑外賃金である。蓄えはない。あったとしてもほんのわずか。もし家族に病人でもいれば蓄えどころか、逆に赤字続きである。

どうして娘が嫁ぐときに要る金をつくるか。私たちのように坑外に勤めている者（残業も公出もない）は、退職金を当てにして金づくりをするしか道はない。

つい先日、結婚費用の平均額なるものが新聞に載っていたが、それによると約六百六十万円とか。

自分たちの老後のことを考えて、それほど費用をかけないで娘に辛抱してもらったとしても四百万円は下らない。それに加えて、昔から娘を嫁がせてから三年間は、娘の親元で食べさせているのと同じくらいの金がいるといわれているから、結婚費用もお祝い金などでトントンになると思ったらとんでもないことだ。

苦労に苦労を重ねて退職金を蓄えていたにしても、娘の嫁入りだけでまたたく間に使ってしまう。ほんとに娘の嫁入りには、金を掃き出すようにいるものだ。

ここで考えることは、退職金そのものが少ないということである。昔のように二十五年勤めると、家一軒（小さいものだが）建てる祝金を会社が出していたが、そんな制度でもないかぎり今の退職金ではどうにもならない。

だから炭労が要求している坑外勤続三十年で一千万円は最低で、絶対に必要だったのだが、ほんのちょっぴりの額上げで秋闘は終わった。

本当は、三十五年も勤めていれば二千万円ぐらいは当然だと思うのだが、どうだろう。（十五分会職場新聞『ほんしょ』第七十五号から）

期末闘争へ

炭労の期末手当闘争は、要求額五十万円をすでに決定していますが、十一月一日要求書を提出、中旬に中闘を招集し本格的な交渉に入ります。

生産会議から

完全無人化は困難
二十八日に四山鉱で公開実験

無人採炭 来年度には実現
9日から自動削岩
三井・三池鉱
センサー使い遠隔操作

十月十二日に開かれた今年度下期の生産会議の席上、組合側から〝無人採炭〟について現在までの経過と今後の考え方を明らかにするよう求めました。

会社側の説明によると、この計画は石炭技術研究所、三池製作所、三井石炭の共同で研究しているもので、まだ研究途上にあるもので結論からいうと「完全な無人化は困難であろう」と、しています。

この計画は、昭和五十七年からカッターの自動化テストを実施し、さらに自走枠の自動化などを手がけてきましたが、それらを組み合わせて払口（片盤坑道）から遠隔操作するというものです。

信号電送方法は、有線、無線、光ファイバーなどが使われますが、各種センサーによる工業用テレビの監視での操作が順調にいくかどうか、二十八日に四山鉱の本層西六十卸添卸東六片で公開実験されました。

坑内の自然条件などに多くの問題点があり、まだ実験の段階です。

新年特集号の原稿を募集

組合員・家族、退職者、守る会の会員、新労組員の皆さん、「みいけ」の『新年特集号』で、平和と民主主義、命と権利を守り、生活の向上のための創造をめざしてたたかう労働者の意欲を燃えあがらせましょう。ふるって原稿を寄せてください。

▼原稿募集要領

短編創作・随筆・職場や家庭からのレポートなど
千二百字以内、一人一篇。

私の主張・保安
千字以内、一人一篇。

詩・短歌・俳句・川柳・狂句など
詩は一人一篇。短歌五首。その他は五句まで。

写真・絵・マンガなど
一人一点。できるだけ白黒で、大きさは自由。

その他、コント・笑話・子供の作文・姿見など
千字以内、一人一篇

締切り　十二月十日

紙上匿名は自由ですが、住所と氏名は明記のこと。謝礼はとくにありませんが、心ばかりの記念品を贈ります。

あほンだら
芝岡友衛